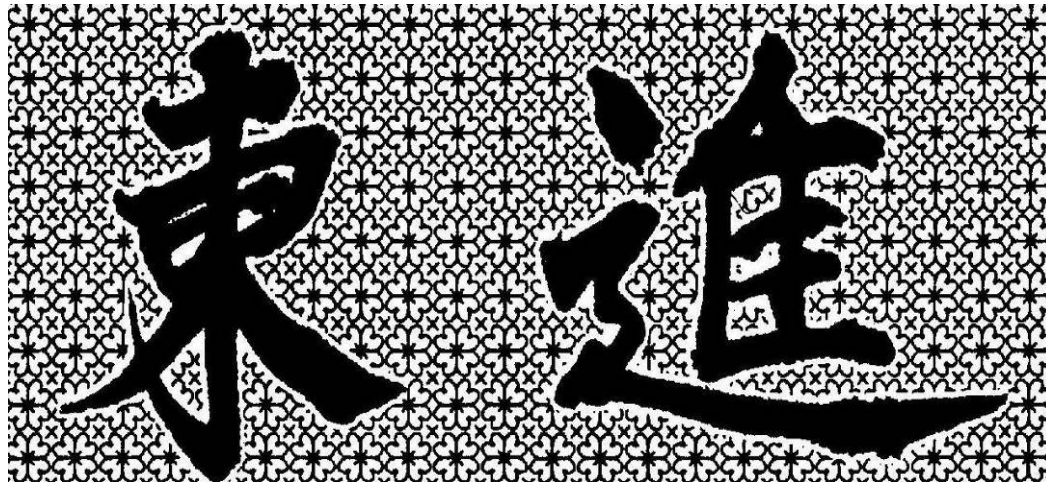


**第40号**

平成22年  
9月20日

**題字**

植木 満  
初代東進会会長

**発行所**

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高  
進修同窓会東京支部〕

**発行人**

東進会会長 大野 金一



土浦花火大会 (提供: 土浦市市長公室広報広聴課)

**■ 特別講演**

繋がりましょう ～豊かな人生のために～

フリーダムトレイル代表 鈴木 貴美子(昭55年卒)

**■ 半了のささやき (第10回)**

カンセイ

高山寺 半了

**■ 平成22年度総会・懇親会風景**

土浦一高 弦楽部の演奏

土浦一高 応援指導部の演技

**■ 総会・懇親会出席者名簿****■ 寄稿**

子どもの居場所はどこに？

星川 美代子(昭50年卒)

## 特別講演



鈴木 貴美子  
昭和 55 年卒

## 繋がりましたよ

## 豊かな人生のために

本日は、「人脈」の重要性について、仕事とプライベートの両方からお話しさせていただきます。

## まずは、仕事です。

私は日本の終身雇用が崩れていることを、長期的には良いことだと捉えています。もちろん短期的にはいろいろな社会問題を生み出すので、あくまで長期的にみた場合ですが。

ご存じのとおり、日本は天然資源がなく、食料を自給できず、世界共通語である英語を話せず、そのうえ少子化に歯止めがかからず、いまさら鎖国できないとすると、このボーダーレスな世界でいろんな国と共存しながら生き残っていくしかないのです。そのためには、慣れ親しんだ環境でずっと過ごすのではなく、新しい環境にも飛び込み多様性と折り合うスキルが求められます。

日系企業、外資系企業勤務、もしくは自営という勤務スタイルに関わりなく、いろんな人とお付き合いをすることは職業人として伸びていく中で重要です。

日本の「飲みニュケーション」。外資系に

ばかり勤めていた 私はあまり好きではありません。仕事が終わってから同じメンバーで、上司や会社の愚痴を言いながらお酒を飲む楽しさ(笑)がわからないのと、仕事が終わったオフタイムには、職場とは関係ない人たちと集みたいからです。仕事からみの話をなぜ就業時間中にせず、お酒を片手にするとできるのかもまったく理解できません。

同じ部署の人、仕事で関りあいがある人とはばかり集まっていて、社外や自分の仕事と直接関係のない異業種の方々の人脈ができないことは、キャリア形成上かなりのマイナスです。以前、日本的な外資に勤めていたとき、新卒で入社して45歳になるまでその企業にいらした方に、会社都合でお辞めいただかないといけない状況が発生しました。典型的な「飲みニュケーション」

人で、社内にはゆるぎない人脈があり、何かプロジェクトをする時など、どの部署の誰に根回しするかなど頼りになる方でした。ただ、社外に出なければならなくなったときに、あまりに人脈がないことに驚かされました。外資の仕事の人間が、自分の転職活動を頼めるヘッドハンターとのパイプがないこと、アドバイスをもらえるようなメンターがいけないこと、この機会を新しいスタートと考えられず「不安・恐れ」の感情に取りつかれてしまっていることなど、外資系で転職をしてきた私にはびっくりすることの連続でした。

私は、外資系人事部長・マネージャーの会の幹事を9年間、ボランティアでやっていました。最初は10人くらいのメンバーでしたが、今は60人ほどになっています。紹介制なこともあり、お互い信頼して、いろ

んな質問や情報交換をメールでしています。この人脈の有難いことは、全員が転職経験者なので、一人5回転職しているとしたら掛け算で30社を直接カバーでき、またそれぞれの知り合いを駆使すればもっと多くの企業の人事をカバーできることです。上方のポジションの候補者が、履歴書ではなかなかいいし面接しても好印象。ただ、人事屋さんの勘で何かひっかかるというような場合、メンバーにメールしてレファレンス(過去の裏を取る)を頼める人がいなか探します。出来立てのベンチャーや、本場に小さな会社を除けば、まず100パーセントつきとめられ、仕事ぶりやコミュニケーション能力などを聞くことができ、その情報をもとに採用しないことも多々あります。

個人的には、アメリカ西海岸のシリコンバレーにあるIT企業に勤めていたとき、日本の慣習を無視してアメリカ流を押し付けようとする人が多いという体験をしました。たとえば、解雇の仕方がシリコンバレーと同じでいい訳はないので、そのようなときはメンバーに助けを求め、他の会社のプラクティスをエクセルシートにまとめて送ります。本社にしても、具体的なデータがあれば、納得せざるを得ないので折れてくるということが数回ありました。この人事の会のメンバーには助けられ、私の職業上の財産といえます。「外に目を向ける」「社外の人と繋がる」という努力をしなかつたら生れなかつた人脈です。

ここからが本題です。3年前に初めて、東進会に出席した私は驚いてしまいました。士業の方、会社経営者の方、建築家やWE Bエンジニア、ありとあらゆる職業の方が

いらしていたのです。しかも、土浦一高の卒業生なのですから、「質」という意味でも高いレベルを期待できます。それまで、仕事をしながら人脈を社外に築くことにエネルギーを注いできた私は、「なくんだ、この輪の中に入れていただければ、外に出る必要はなかった。もっと早く一度参加してみれば良かったなあ」という感想を抱きました。

今日、初めて参加されて、随分平均年齢の高い集まりに来てしまったと居心地が悪い方、もしいらしたら、それは3年前の私とまったく一緒です。3年前の東進会で、私は、2人のかけがえのない友に巡り会いました。職業上のアドバイスもしてもらっていますし、プライベートでもカラオケ仲間になったり、高校時代にはお互いを知らなかつた者同士が、素敵な人間関係を築いています。皆さんも新しい出会いを得て、今日参加されたことを後日振り返って「良かったなあ」と思える日が必ず来ます。来年も新しい人脈作りには是非お越しくください。

## 次に、プライベートです。

私事ですが、5月17日に母が他界しました。この出来事は、本当に本当にこたえました。告別式、お通夜ともに、身内だけで行う予定でしたが、高校時代からの友達が、一人は柏、一人は龍ヶ崎、一人は筑波から来てくれて有難かったです。周りに人もいたのに、友にとりすがって泣いてしまい、「ああ、この人たちの前では、格好悪くても情けなくても、自分のままでいられるんだなあ」と思いました。

2週間くらいして、弟が初めて晩御飯を外で食べてくるというので、誰と行くのか

と思えば、高校時代からの親友でした。K君は母が亡くなった日、サウジアラビアに出張中でしたが、忙しなか見事な弔辞を電子メールで送ってくれたのです。文章が見事だったこともさることながら、母と弟への溢れる思いが詰まった、読む人の心を打つ弔辞でした。弟も「ああ、やっぱりどうしようもなくつらい時、会いたいのは高校時代の友達なんだなあ」と思ったそうです。

今、後ろの方にいらつしやる学生さんは、遊びや勉強や恋愛で忙しく、前へ前へと走っていて、高校時代を振り返る余裕などないかもしれません。社会人になってしばらくは、自分の居場所を職場で作ることや、家庭のことで頭がいっぱいかもしれません。でも、人生は長いのです。楽しいことばかりでなく本当につらいこともあって、山あり谷ありのような気がします。高校時代の友達を大切にしてください。あなたの大変な時を支えてくれるのは、高校時代の友です。

**繋がりましたよ、輝かしいキャリア形成のために。**  
**繋がりましたよ、もっと豊かな人生のために。**

人生の諸先輩方、まだまだ人生修業足りぬ若輩者の私にこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございます。

すぎき きみこ

フリーダムトレイル代表

## 半了のささやき (第10回)

高山寺 半了

前回の「タンジェント」は如何でしたか？ 高校時代を思い出して懐かしかった……それは何よりでした。今回も、お題は高校時代に遡って「カンセイ」と行きましょう。

「カンセイ」と聞いて貴方はどんな漢字を思い浮かべましたか？ **完成、陥穽、慣性、感性、管制、歓声、閑静、官制、寛政、喊声、ざあく**とパソコンで変換しただけでも10個。人生経験豊富な皆さんは、「カンセイ」と聞いて色々な事が走馬灯のように駆け巡った事と思えます。理系と文系で浮かんだ漢字も異なるかもしれませんね。

それでは、下の句に「ホウソク」と来たら……理系の御仁にはピュンと来ましたね。そうです、今回はまずは「慣性の法則」。ご存じニュートン力学の運動の第一法則ですね。えく忘れちゃった。別に知らなくても生活には困らないわよ……御尤も。「静止している物体は外力が加わらないと静止したまま、動いている物体は等速直線運動を続ける」。思い出しましたか？ 何だ！ 我家の宿六のことか！ 何も動かさず「風呂、ビール、飯、寝る」。いや、逆に、韓流ドラマに嵌まりパク・ヨンハの自殺に涙し

TVの前を動かさず、旦那にあれこれ指示する奥様のことでしようか(笑)  
先輩、御同輩の御家庭の事情はともかく、これが国となるとちと違いますね。

「官制の法則」これは困りものだが頑強に蔓延している。官僚・お役人は基本的に「事なかれ主義」「前例踏襲主義」「国益より省益」。つまり何も変えない、工夫しない、責任を取らない。取るのは税金からの高額給料と天下り先。因みに議院内閣制の母国・英国のOED(オックスフォード英語辞典)には、「官僚組織」とは「中央政府の行政管理者集団のこと。(選挙で選ばれていないため)有権者に対して責任を負わない人々である」と明記してある。知っていましたか？ 自民党を長年繰り、今また民主党を骨抜きにしている日本の官僚組織は、原理的に正しいことをしているんですよ。脱官僚なんて言うのは戯言ですね。皆さん騙されましたか、某政党のマニフェストに。でも、「官制の法則」は官僚だけでしょうか。民間企業でも「創意工夫ゼロ」「幹部の役割は上意下達」。上意ならまだ良いが、意味も理解せず、「言葉」のみ伝えたら「俺は仕事をした」。そして子会社、下請けへの天下り。お役人と同じですね。官僚主義が蔓延すると会社も危ういのですよ。あの「J航空の様に。ところで、貴方自身は大丈夫ですか。現在の自身の行動をしっかりと「仕分け」してみたら如何でしょうか。「あれく俺

も毎日惰性で生きているな。」と気がついた貴方は流石。そうなんですよ。「慣性の法則」は万物に適用されるんですよ。貴方にも私にも。

そこで今回のささやき。「犬も歩けば望に当たる。新しいことを始めてみよう！ 新しいことは感性が何より大事。感性の法則こそ新世界を拓きますよ」。政治が社会が……と言う前に、我々自身が変わらなければ何も変わらないのではないのでしょうか。

最後に下の句が「カイカク」と来たら何を思いますか。文系か歴女の貴方は「寛政の改革」ですか。江戸時代、松平定信が老中在職六年間に行った幕政改革。そして平成の現在、『憲法の内閣は「国会」議員内閣制」なのである。しかし実質は……「官僚内閣制」になっているのが大問題なのである』(菅直人著「大臣」より)。「菅政(府)の改革」、期待できるのかな？ 松平定信は六年間政権維持したが、菅政権は六か月持つのか？ この東進が発行される頃には結果がでているでしょうね。「平成の菅政の改革」が上手くいくかは、菅任せ、民主党任せでなく、我々一人ひとりがどう変わって、どう国を変えたいのか、つまり民意という外力にかかっているのではないのでしょうか。

こうざんじ はんりょう  
みはたちの夢を乗せて、二脚二輪で、シルクロード走破に挑戦しています。

平成22年度総会・懇親会が盛大に開催されました。  
6月13日(日) 学士会館



土浦一高弦楽部の演奏



応援指導部による応援歌・讃歌・校歌



特別講演スピーカー  
鈴木 貴美子さん



真剣に聞き入る出席者の皆さん



最年長のお二方(昭和16年旧制中学卒)  
向かって右は、片岡弘安さん  
向かって左は、竹島節三さん

片岡さん・竹島さんの発声で、乾杯



東進会に初めて参加された皆さん ～ 大先輩から大学生まで～



応援指導部のリードで校歌斉唱



みんなで校歌斉唱

総会・懇親会  
出席者名簿

来  
賓



土浦一高 校長  
市村 仁 様

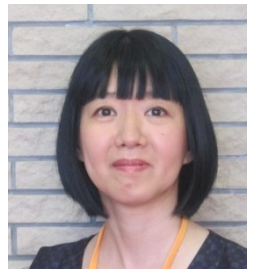


進修同窓会副会長  
青山 和義 様



茨城県東京事務所  
菊地 道雄 様

特別講演



鈴木 貴美子  
(昭55)

准  
会  
員



片岡 弘安 (昭16)



竹島 節三 (昭16)



大津 一郎 (昭20)



大塚 保 (昭20)



狩谷 孝雄 (昭20)



酒寄 和郎 (昭20)



高野 孝 (昭20)



田中 和夫 (昭20)



廣瀬 琢朗 (昭20)



山口 進 (昭20)



渡邊 光夫 (昭20)



木島 幸夫 (昭24)



酒寄 恵行 (昭24)



砂山 嘉幸 (昭24)



川村 博通 (昭27)



坪井 洋 (昭27)



砂川 憲二 (昭28)



井坂 正 (昭31)



色川 嘉一 (昭31)



大野 金一 (昭31)



菊地 清 (昭31)



高野 久弘 (昭31)



田村 恒 (昭31)



中本 青士 (昭31)



蓮 幸治 (昭31)



水越 勝雄 (昭31)



武藤 明 (昭31)



山田 晴康 (昭31)



山本 嘉子 (昭31)



渡辺 隆 (昭31)



服部 彥雄 (昭32)



沼里 征二 (昭33)



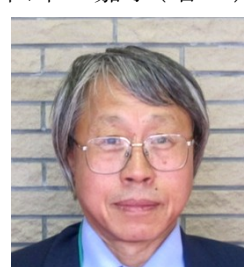
糸賀 勲 (昭34)



小松崎 勇 (昭43)



菊田 佳幸 (昭36)



若山 宏 (昭36)



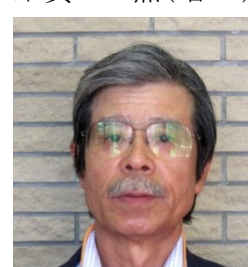
中村 孝雄 (昭37)



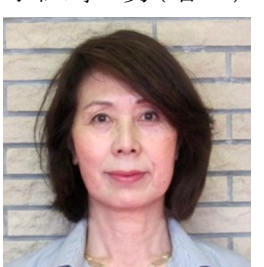
北川 正之 (昭37)



矢口 照雄 (昭37)



上野 健夫 (昭38)



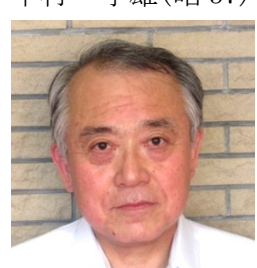
野村 ルナ (昭38)



鈴木 達 (昭39)



池和田 暁 (昭40)



伊藤 勝 (昭40)



鮎川 宏一 (昭40)



廣瀬 巳良 (昭40)



相澤 興二 (昭41)



飯塚 泰助 (昭41)



今泉 房子 (昭41)



河合 隆 (昭41)



中島 良平 (昭41)



長戸 琴 (昭41)



野口 卓男 (昭41)



初田 正雄 (昭41)



久松 信明 (昭41)



安井 恵子(昭41)



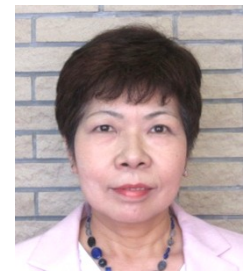
柳沢 道弘(昭41)



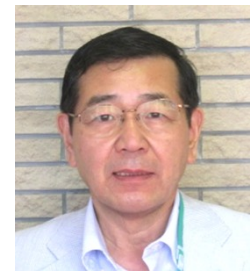
山岡 憲(昭41)



山村 章(昭41)



常山 浄子(昭43)



中座 恒夫(昭43)



中島 敏勝(昭43)



中村 洋子(昭43)



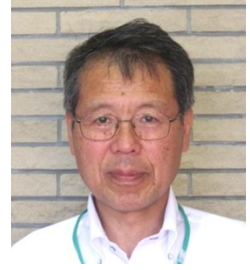
幕内 邦夫(昭43)



光永 研一(昭43)



宮崎 好廣(昭43)



柳沢 成二(昭43)



渡邊 慎一(昭43)



大関 享(昭44)



岡崎 孝宣(昭44)



斉藤 泰雄(昭44)



逆井 誠(昭44)



永井 博(昭44)



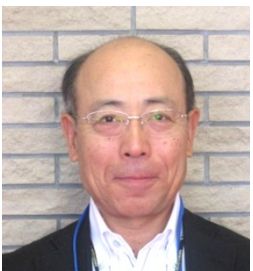
渡辺 良治(昭44)



井野万里子(昭45)



鈴木 良治(昭45)



小野 幹夫(昭46)



井坂 公明(昭48)



神立 哲男(昭48)



君山 利男(昭48)



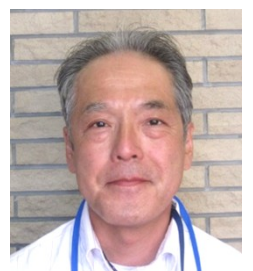
柴原 至(昭48)



福島 郁夫(昭48)



本橋 浩道(昭48)



矢口 泰士(昭48)



吉田 正史(昭48)



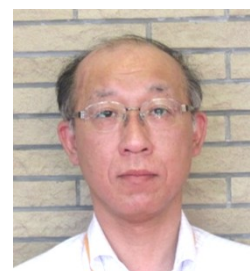
石井 稔(昭49)



内田 敬子(昭50)



小野村敏之(昭50)



加藤 祐司(昭50)



花上 克宏(昭50)



藤田加奈子(昭50)



星川美代子(昭50)



大和田 満(昭53)



箱守 知己(昭54)



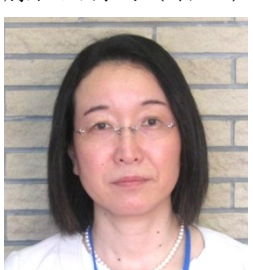
櫻井成一朗(昭55)



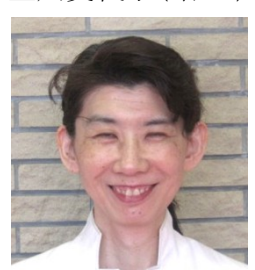
酒井 学雄(昭56)



宮川 祐一(昭56)



大久保祐子(昭57)



柏瀬 孝子(昭57)



奥田 夏樹(昭63)



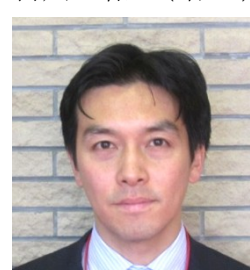
吉田 和則(平3)



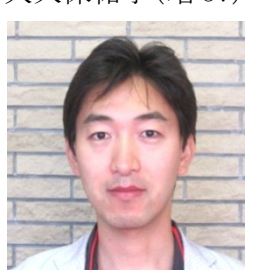
酒井 洋幸(平3)



伊東 明彦(平5)



五十嵐朝青(平6)



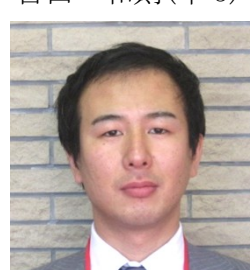
岩崎 明彦(平6)



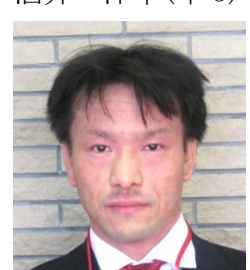
白鳥 玲子(平6)



羽崎 友康(平6)



菱沼 邦夫(平6)



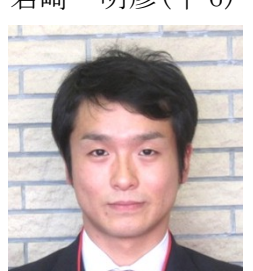
堀越 智也(平6)



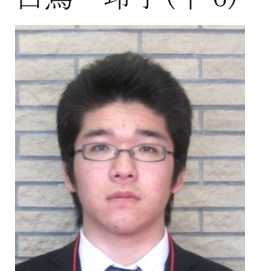
青木 智典(平7)



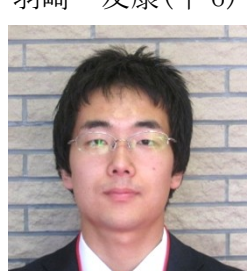
緒方 浩一(平7)



青山 大人(平9)



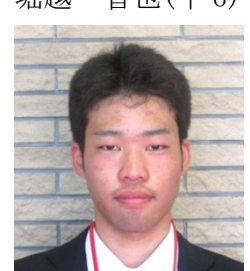
中島 克典(平19)



柴沼 肇(平20)



片倉 元(平21)



工藤 大彰(平21)



富岡 宏隆(平21)



内藤 雅之(平21)

## 寄稿



星川 美代子  
昭和 50 年卒

## 子どもの居場所はどこに？

自分の子ども（二男二女）にも、英語を教えることができれば、という思いがあり、川崎大師の地で、18 年前に幼児・小学生対象のフランチャイズの英語教室を開きました。長男（現在 26 歳）の同級生が大勢来ていた頃は、親たちも非常に熱心でした。英語の暗唱発表会や遠足、国際キャンプ、クリスマスパーティー、ハローウィーンパーティーなど異文化に触れるイベントに多数の協力を得ることができました。両親で積極的に参加してくれる家庭が多かったことが心に残っています。

自分の子どもの年齢が上がってくるに従って、英語教室ではなく、英語と数学（テストの前には全教科）を中高生に教えるようになりました。ここ数年通ってくるのは、公立中学校での成績が中の下くらいの子どもが多く、半数以上が片親家庭です。クラスでも約半数が片親家庭だと聞いています。子どもは誰もいない家で、夜遅くまで一人で過ごします。一人では寂しいので、24 時間営業のコンビニエンスストアやゲームセンター、カラオケ、公園で時間をつぶすようになります。次第に同じ境遇の間ができて、深夜の町を歩き回るようになっていくのです。親は、高校進学に必要なの

で、学校の勉強に興味はあるものの、自分の仕事や生活で忙しく、子どもの話をゆつくり聞いたり、面倒をみる時間もないのが現状です。子どもは強がりを言っている寂しがり屋です。

それでも部活動を熱心に行っている生徒は、疲れて帰宅することが多く、外で遊びまわることあまりありません。しかし、先生とそりが合わなかったり、いじめられたり、親が深夜まで働いているため、朝起きることができないといった理由で、部活動をやめてしまう生徒もいます。子どもが学校に行く前に家を出なければならぬので、学校に行つたかどうかから親もいます。子どもは朝寝坊し、学校を遅刻や欠席してしまうわけです。学校からの連絡で、親は子どもが学校に行っていないことを知ることになります。前述したように、夜は寂しいので、外に遊びに行き、朝起きることができないので、学校に行きたくない、行くことができないという悪循環になってしまいます。

最近の気になる生徒の声です。

「学校でもうちでも、まったく話をしないので、ここに来て話をするのが唯一の息抜きだよ。」

「勉強だけでなく、いろいろな話を聞いてくれる大人がいないので、ここに来て思う存分話することができるとだ。」

「うちでは他の兄弟や、親のテレビの音が、うるさくて勉強ができないので、少しでも長い時間ここにいて勉強したい。」

「晩御飯はコンビニで買って済ませていいよ。親もあまり食べないし。」

学力のある、勉強のできる生徒を除いては、小学校 5、6 年生の算数がよく理解されていません。特に、分数、小数、割合、文章題が苦手です。中学生になつても、この種の問題が出てくると初めから、解答するのを放棄する生徒が目立ちます。また、英語も中学一年の夏休みが終わると、英語嫌い、よく分からないという生徒が半数近くになります。日本語の文法にはない、複数の概念、三人称単数現在で躓いてしまうようです。勉強がよくわからないことも、学校に行きたくない原因の一つにもなっています。結局、こういった子どもたちは、高校に行つても、授業内容は高度になつていくのに、まったく基礎がわからないため、留年や中退といった道を歩んでしまいます。

小学校のわからないところまで戻って、わかるまで勉強を教えてくれたり、自分の気持ちをつくり聞いてくれたりする「居場所」を探している子どもたちが多いような気がします。子どもには、夜は誰か大人がそばにいて、御馳走でなくても、手作りの晩御飯を食べて、落ち着いた環境で本を読んだり、勉強したり、話したりする「居場所」が必要です。片親家庭が増えてしまった現実から目をそむけることなく、より複雑化した社会に子どもの「居場所」を作つてあげることが私たち大人の役目であるのではないのでしょうか。

自分の子どもはもう育てしまったから良いのではなく、社会の宝物である子どもを豊かに育てていくことが、日本の将来

にも少なからず影響してくるものと思われれます。私たち大人が、知恵を出し合つて、子どもがいつでも、好きなときに、気兼ねなく来て、悩みを話したり、勉強したり、相談できる「居場所」を作ることが急務です。どのようにすればよいのか、今は手をこまねいているのが現状ですが、なんとかしなければならぬという強い思いを抱いております。

## 編集後記

平成 22 年度総会で、これから 2 年間の役員が承認されましたので、役員の一部を報告いたします。

会長	大野 金一 (昭 31 高)
副会長	渡邊 光夫 (昭 20 中)
同	沼里 征二 (昭 33 高)
同	長戸 琴 (昭 41 高)
同	幕内 邦夫 (昭 43 高)
監事	坪井 洋 (昭 27 高)
同	小野 幹夫 (昭 46 高)
幹事長	宮崎 好廣 (昭 43 高)

総会・懇親会出席者数は、昨年度を上回りました。とくに、平成の卒業者に多く参加していただき、現役の大学生も応援指導部 OB を中心に 6 名を数えました。東進会のこれからは、万々歳のようなです。

鈴木貴美子さんは、仕事にも私生活にも人間としての繋がりの大切さを、星川美代子さんには、子どもを取り囲む厳しい環境と大人の役割についての提言を、ご執筆いただきました。お二方を通じて、人間関係の重要性を改めて認識いたしました。(初)